

# R5 渇水 灰塚ダム及び渇水調整の効果

- 灰塚ダム流域は、令和5年7月中旬以降小雨傾向となり、8月から1月の流域平均雨量は平年の半分程度であり、渇水状況(最低貯水率約17%)となりました。
- 水道用水については、広島県広域水道企業団において、他の浄水場から緊急的に水を融通するなどの取組により、河川からの取水を最大15%削減しました。また、灌漑用水についても、地域の皆様のご協力のもと、河川からの取水を最大80%削減しました。
- 市民の皆様の節水への協力や上記の取組により、ダムの貯留水をコントロールすることで貯水率0%を回避することができました。(貯水率が0%になるとダムからの水の補給ができなくなり、水道の断水や生物の生息環境などへの重大な影響が懸念されます。)

## 灰塚ダムによる効果

平成6年河川状況(灰塚ダムなし)(H6.7)



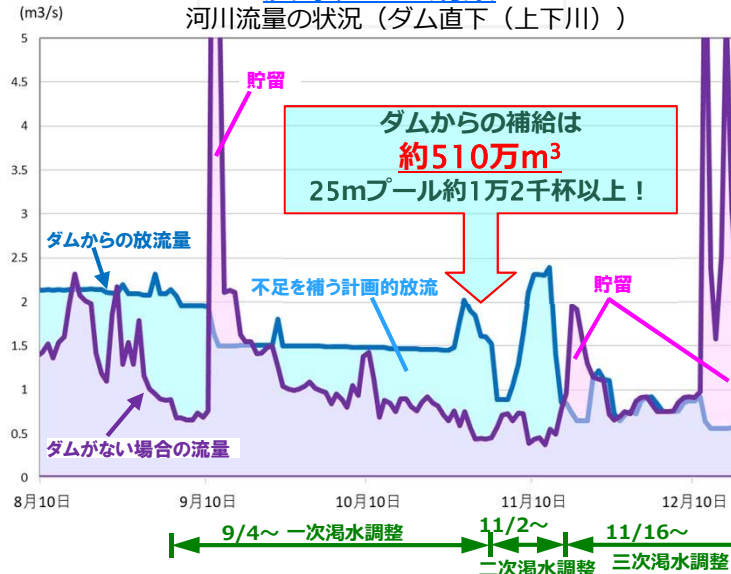
令和5年河川状況(灰塚ダムあり)(R5.9)



この計納橋(灰塚ダム下流約1.7km)より下流

## 灰塚ダムの効果

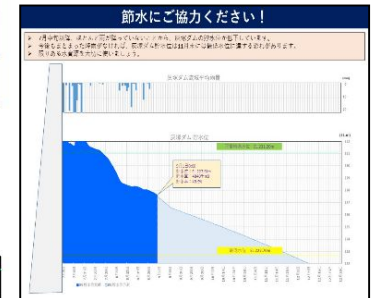
河川流量の状況(ダム直下(上下川))



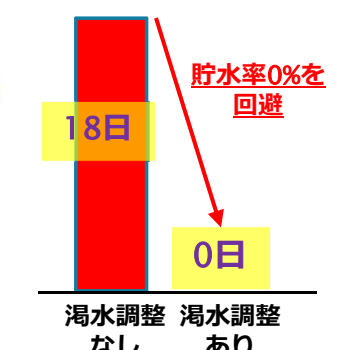
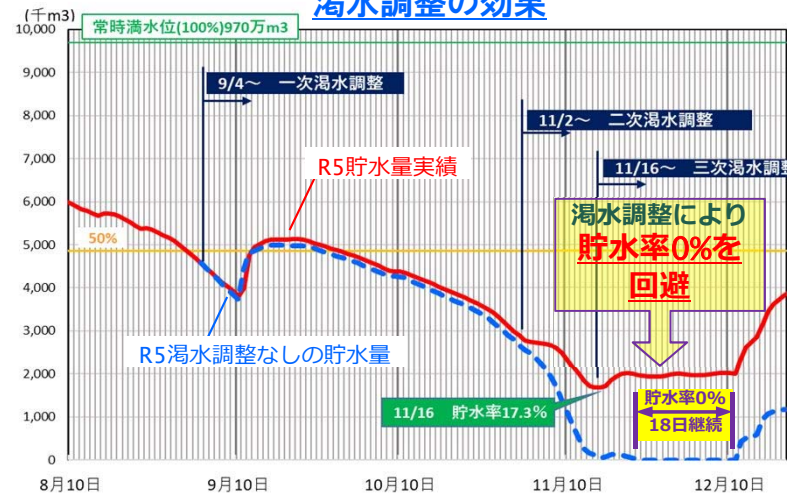
## WEBサイトでの節水の呼びかけ



## SNS(X:旧Twitter)での節水の呼びかけ



## 渇水調整の効果



ダム貯水率0%の日数

※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。